

# みんなで育てる みんなで育つ 子どもの困難さに寄り添う保育

ブックレット付：対談 小田 豊(監修) × 足立祐子(解説・幼稚園園長)

近年、特別支援の必要な幼児が増えてきた。

困難さを抱えた子どもたちをどのように保育したらよいのか、  
保育の現場では日々模索と葛藤がある。

このビデオは、ある幼稚園の特別支援保育の実践を通して、  
保育者が子どもたち一人一人の困難さに向き合い、寄り添い、支えることで、  
子どもたちが成長していく様子を記録した。



監修のことば 小田 豊 (聖徳大学児童学部教授 前国立特別支援教育総合研究所理事長)

ここ十数年で手がかかる、気になるといった子どもの相談が増えてきました。  
それに伴い幼児期の教育においても、特別支援を必要とする子どもたちを受け入れることが求められています。

子どもたちの発達には個人差があり、特に幼児期は発達も著しく、障害があるといわれた子どもでも、成長段階で症状が変化したり、周囲の大人たちの適切な関わりで、気になる症状も改善されることが多くあります。基本的には就学前までは、障害と断定しないで、「個性の強い子」という考え方で接することが大切です。

このビデオは、幼児一人一人の個性や困難さに正面から向き合う幼児期の特別支援教育の在り方を教えてくれています。

## 利用対象者

幼稚園、保育所、認定子ども園、幼児教育・保育士養成系大学及び専門校、  
特別支援教育・保育関係者、教育関係者等

制作協力：篠原孝子（元文部科学省初等中等教育局幼児教育課教科調査官）

解説：足立祐子（幼稚園園長）

演出：山田博之 撮影：八木義順 録音：黒澤道雄・金山はづき 制作：田村 恵

企画・制作・著作・販売 幼児教育映像制作委員会

※このビデオは幼児期の特別支援教育・保育の理解と向上を目的に制作されました。目的以外の視聴、使用を禁じます。  
※このビデオの無断複製は法律で禁じられています。

# 主な内容

■シュンくんは幼稚園3年保育の4歳児。遊ぶことが大好きだが、たびたび友だちとトラブルになる。一斉活動に移行するときには不安が増し、友だちに嫌なことを言ったり、乱暴したりする。担任はシュンくんにかかわることで全体の活動を止めてしまう難しさを抱えながら、真剣にシュンくんに向き合っている。生活発表会に向けた活動でも、初めてのことが不安なシュンくんは、忍者の衣装を着ようとしなない。

■ショウちゃんは4歳児のクラスに途中入園してきて1か月目。新しい環境に慣れにくく、制服もまだ着られない。クラスの子が他の場所へ活動に行っても、お部屋に支援員と一緒に残って、家にもあって遊び慣れた“ビー玉コロコロ”に夢中になっている。

■みんながお弁当を食べ始めた頃、ショウちゃんはまだ園庭の遊具に寝そべっている。みんなが集まった時のざわざわした感じが苦手なようだ。担任が誘いに来ると、ようやく部屋に入っていく。昨日まではみんなと離れた場所で食べていたが、今日は部屋に席を準備し、ショウちゃんの抵抗感が少ないように、友だちに背を向けて座るようにした。

■担任はシュンくんが生活発表会の活動に入りやすいように、“忍者の修行”に得意なトランポリンを入れた。その様子を離れた場所からながめるショウちゃん。ここに“忍者の修行”を終えたシュンくんがやってくる。これまで友だちに関心を示すことが少なかったショウちゃんも、シュンくんと一緒にジャンボマットに飛び乗って、同じ動きをすることを楽しんでいる。

■お弁当の時間、担任はシュンくんに頼んでショウちゃんを誘ってもらい、椅子も並べてもらった。ショウちゃんは、初めてみんなの方を向いてお弁当を食べ

ることができた。

■特別支援が必要な子どもたちは、入園後に驚くような成長を見せてくれることがある。年長組のリョウガくんは2年前に入園した時はようやく寝返りができるようになったところだったが、園で過ごす中で次第に立ち上がって歩けるようになった。みんなで作った滑り台を友だちに支えられながら滑ってうれしそう。年中組のヒサちゃんは1か月前に入園した。家ではほとんど起き上がらないということだったが、幼稚園では自分から立ち上がって歩くようになった。

■翌週、シュンくんがジャンボマットでジャンプ台を作り始めると、友だちが集まって来る。いつものように“ビー玉コロコロ”をしていたショウちゃんもやってくる。そして、シュンくんたちと手をつないでジャンボマットに飛び降りる。

■ジャンボマットの遊びがひと段落したころ、シュンくんがライヤくんともめごとを起こす。取っ組み合いにならないように、先生がシュンくんを押さえていると、ショウちゃんが助けに来る。シュンくんと一緒に動いて楽しかったので、先生から守るつもりだったようだ。状況は理解しきれていないが、シュンくんの気持ちに気づいてきている。

■次の朝、ショウちゃんは担任に「ジャンボマットに飛び降りる遊びをやりたい」と言う。昨日やって楽しかったことを発信できるようになった。シュンくんもその遊びに加わり、回転しながら飛び降りる新しい技を発明すると、ショウちゃんも何度も同じように飛び降りる。友だちから刺激を受けてやってみたくなり、気持ちが友だちに向くようになった。